

婦人用ブラウスの着用によるシルエットの変化

○村上真知子* 鬼原路子** 藤本尊子*** 丹羽雅子****

(*岐阜市立女短 **株システムエイド ***北海道教育大 ****奈良女大)

目的 婦人用ブラウスの縫製では、衿、見返し等に、接着芯地が用いられ、それがデザイン上シルエット形成に大きく寄与している。また、ブラウスという服種から、かなり頻繁に着用、洗濯を繰り返す。このため、繰り返しの着用によるシルエットの変化が予想されるが、ここでは、それがどのように変化していくかを捉え、美しいシルエットの設計と保持に必要な条件を見出すことを目的とする。

方法 前開きの見返し部分に接着芯を用いたタックインブラウスについて、着用実験を行った。実験には繊維組成の異なる2種類のブラウスを用い、各々の繰り返し着用過程の、ブラウス各部位の寸法変化を追跡した。また、着用前後のブラウスの接着縫製部分、非接着縫製部分の布の力学的性質について計測を行い、繰り返し着用による布の力学的性質、風合いの変化を調べた。

結果 着用前と、繰り返し1000HRS.着用(着用+洗濯)では、曲げ変形特性、せん断変形特性に顕著な変化がみられ、KOSHIの低下に繋がっていることがわかった。特に、接着縫製部分では、表地だけの部分に比べて、曲げ変形特性の変化が著しく、本研究で用いたようなタックインブラウスのようなデザインでは、シルエットに大きく影響すると考えられる。また、この変化の程度は、表地の種類や用いる接着芯地によって異なることがわかった。